

学校 通信 2-12		かけはし	教育目標 ○学び合う子 ○つながり、 支え合う子 ○たくましい子	武蔵村山市立 第九小学校 校長 村山 博子 令和3年3月1日
------------------	---	------	--	---

あの 3.11 から 10 年…

副校長 日吉 英智

先日、2月13日（土）の午後11時過ぎ。突然の揺れに驚いた方も多かったのではないのでしょうか。福島県では震度6強の揺れを観測しました。私も自宅でそろそろ寝室へ行こうかとしている時の揺れに驚いたと同時に、2011（平成23）年の東日本大震災のことが思い出されました。長い揺れと揺れの周期が大きかったことが東日本大震災の時に少し似ていたからです。

あの3月11日からもうすぐ10年になろうとしています。時が経つのは早いものです。あの当時、私は前任校で5年生の学級担任をしていました。午後2時46分。5年生の子供たちと卒業式の会場準備のため、体育館で準備をしていました。その時にあの大きな揺れに遭遇しました。忘れもしません。大きく左右に、しかも振幅が大きくゆっくりな今まで経験したことがないような揺れ。学級の子が「先生、気持ち悪い。」と酔ってしまうくらいの揺れ。「これは、大変なことになっているに違いない。」と思いました。子供たちを下校させた後、さらに衝撃がありました。それは、テレビ画面に映し出された津波の映像です。1993（平成5）年に北海道南西沖地震で奥尻島を襲った津波で破壊力がすごいことは知っていましたが、生中継で見た衝撃は忘れられません。

あれから10年。今の小学生は、まだ生まれていないか生まれていても記憶にはないものと思います。私たち大人は次の世代にこのことを伝えていかなければならないと思います。

昨年度（令和元年）7月、宮城教育大学が主催する防災研修に参加しました。仙台駅から東日本大震災の被災地を廻りました。私の心を一番締め付けたのは、石巻市立大川小学校の跡地でした。報道でも取り上げられていましたので、御存知の方も多と思います。避難が遅れ、全校児童108名のうち74名が津波により死亡・行方不明となった現場です。校舎は残ってこそいましたが、外壁はなくなっており、本来は室内にあるものが外にむき出しになっていました。



←2階建ての校舎の屋根まで津波が襲ったそうです。避難できたはずの近くの丘から撮影。

私は、「緊急事態においては、冷静で的確な判断を短時間で下さなければならない」ということを学びました。突然、そのようなことが出来る訳もなく、日頃から考えておくこと、準備をしておくことが大事だと思います。

学校では毎月、避難訓練を実施しています。毎月行うことで、ややマンネリ化してしまうことはありますが、緊急事態で確実に命を守る行動をとることができるためには、訓練が必要だと思います。それは、児童にとってもそうですが、私共、教職員にとっても同じと考えます。

御家庭でも、東日本大震災から10年を機に改めて防災についてお話しされてみてはいかがでしょうか。